

指導方法等の改善計画について 三原市立沼田東小学校

1 課題と取組について

本年度の結果について
<p>○取組の成果と課題</p> <p>昨年度の調査結果から、国語科、算数科とも「読む力」「書く力」に課題があった。そこで、全学年、学校図書館を活用した授業実施や読むことと書くことの関連を図った自作プリントを作成して帯タイムで実施するなど新たな取組を進めた。その結果、長文でも諦めず最後まで読み取るうとしたり、自分の考えを何かしら書こうとしたりする学びに向かう姿勢は高まってきた。</p> <p>○本年度の調査から明らかになった課題</p> <p>〈国語科〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしなが読む。(75.5% 県より6.4、全国より5.2ポイント低い。) ・自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く。(42.9% 県より8.6ポイント高いが、正答率が低い。) <p>〈算数科〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・除法の式の意味を理解している。(38.8% 県より9.3、全国より8.2ポイント低い。) ・図形の性質や構成要素に着目し、他の図形を構成することができる。(55.1% 県より6.6、全国より5.2ポイント低い。) <p>結果から「読む力」「書く力」に依然として課題がある。また、漢字や数量や図形についての知識・理解に課題が大きく、基礎学力の定着が十分付いていない。さらに、A層とD層に大きく分かれるなど個人差がある。</p>



課題克服に向けた重点取組
<p>○全校での取組について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」と「書くこと」の関連を図った学校図書館を活用した授業実施を学期に1回行う。 ・自分の言葉で自分の考えや思いを書く時間を大切に。その際、理想とするまとめや説明モデルを教師が書き、それを児童が写すことから訓練する。 ・チャレンジタイム(学力補充)の取組内容と時間の見直しを図る。 <p>○授業改善について</p> <p>〈国語科〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物語文や説明的文章の指導にあたって、初読で、条件(文字数、○段落で)を付けて話の内容や自分の感想、筆者の主張やそれに対する自分の考え等の内容を学年に応じて書かせる。 ・教師が主語と述語を意識しながら正しい言葉遣いをするともに教科書の叙述や言葉にこだわった指導を大切に。行う。 <p>〈算数科〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5つの視点①必然性を感じる問題場面②めあての具体化とまとめの整合性③話題の明確化④学びを追究する振り返り確認問題⑤効果的な手立てを大切にしながら授業を仕組む。 ・低学年から、順序よく図に表す活動を取り入れ、表現の置き換え(図を言葉に、式を図に)や関連付けを促す。そして、なぜその判断をしているのか根拠を考え説明することを大切にし意味・本質理解を図る。

2 本年度の結果(全国)

教科	国語	算数
目標値 (対県比%)	県平均との差の改善	
結果 (対県比%)	70 (106%)	68 (100%)

3 取組の計画

平成31年度 2学期
<p>【全校での取り組みについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全教職員で通過率の低かった問題を解き、誤答分析を行い、2学期からの授業改善の手立てのポイントを共有する。(8月実施済) ・チャレンジタイムの取組内容と時間を見直し、全教職員で今後の方向性を確認する。(8月実施済) ・新たなチャレンジタイム(毎月第2、3週水曜日6校時45分間 計算→音読・視写→漢字→学び直しの基礎学力の定着、担任外が課題の大きい学年に入り担任とともに指導)の実施(10月初) ・国語科(各学年)と算数科(各学級)における効果的な授業実践のまとめを行う。(10月末) ・「標準学力調査」(目標値:全国平均値との差改善、40%未満児童の減少)に向けた取組を計画し、全教職員に周知し、実施する。(11月初) ・2学期の学校図書館を活用した授業実践を交流する。(12月末) ・効果的な指導の手立てや授業実践、児童の変容を交流する。(12月末)
<p>【授業改善について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月公開研と9月以降の授業研究では、標準学力調査の分析を授業研究に活かす。(学年実態における課題の大きい領域、観点から授業を仕組む。) ・9月(6年)、11月(1年)の授業研究においては、算数科における5つの視点とともに全体と個に対するバランスのとれた効果的な手立てを講じていき、その単元における指導の在り方を学び合う。 <p>〈日々の授業〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・算数科においては、5つの視点のうち特に④学びを追究する振り返り確認問題を意識して行い、45分の授業の中でやりきらせる。 ・書く活動を大切に。本時でのキーワードや各教科での用語を入れて自分の考えを書いているかに視点を置き評価する。 ・同じ問題をできるようにまで繰り返し取り組ませたり、やるべきことは確実にやりきらせたりして、積み残しをさせない。
平成31年度 3学期
<p>【全校での取り組みについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2学期単元末テスト結果分析から3学期の取組内容(授業改善と学力定着)の見直しと共有化を図る。(1月初) ・「標準学力調査」結果の誤答分析を行い、躓きの要因を明確にし、全体と個への学び直しをする。(2月末) ・3学期の学校図書館を活用した授業実践を交流する。(3月中) ・一年間の効果的な手立てや授業実践、児童の変容を冊子にして全教職員に配布し次年度へつなげる。(3月中) ・効果的な教材・教具の整理、蓄積をする。(3月中) ・一年間の取組の成果と課題を明確にし、次年度の方向性を出す。(3月中) ・40%未満児童の個別指導計画を作成し、次年度の指導に活かしていく。(3月末)
<p>【授業改善について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1月(2年)、2月(5年)の授業研究においては、2学期の学びや改善を活かして授業づくりをし、その単元における指導の在り方を学び合う。 ・2学期の取組から継続することと新たな取組を明確にして日々の授業を行う。

4 次年度の正答率(全国)

教科	国語	算数
目標値 (対県比%)	75 (110%)	75 (110%)
結果 (対県比%)		

5 取組の振り返り

○効果のあった取組
○改善していく取組